

～身近な地域とのつながり～

日常の暮らしの中での福祉を話し合っていく中で、とても重要となるのが「地域」という言葉。ご近所さんとのつながりから、生協の組合員としての福祉活動、そして少し視野を広げた学区や区域の取り組みについて着目し、調べていくことにしました。

京都生協内での取り組み

宅配・店舗事業

共同作業所連合会とのつながり（物品販売 署名活動 作業所の仲間による引き取りステーションなど） 視覚障害の方への声のキャンパス

組合員活動

平和の取り組み ユニセフ 暮らしの助け合いの会 作業所や福祉施設での活動 クラブやコミュニティでの喫茶や集いの場づくり 組合員が個々で活動するNPOグループ 児童や留学生への支援など

行政との取り組み

北部両丹地域から始まった市町村や社協との「見守り協定」が、南部や京都市内でも拡大

調べてみると、いろんな地域で生協が（個人組合員含め）様々な福祉の取り組みをしているのが見えてきます。しかし、それがあまり周知されていないのは残念なことです。

社会福祉協議会って???

「知ってそうであまり知らない」「身近なようで関わりが薄い」…実行委員からのそんな声に、昨年末にひと・まち交流館内の京都市社会福祉協議会を訪問。資料やDVDを基に、社協の役割や具体的取り組みを説明していただきました。京都市の社協は、学区（学区社協）、区域（区社協）、市域（市社協）の三層構造になっており、各々の段階ごとの関係機関、団体などと連携を持ちながら、福祉コミュニティを進めています。近年の、核家族化、少子高齢化、地域のつながりの希薄さから生じる孤独死や虐待などの課題、災害時要配慮者への支援、地域包括ケアシステムへの対応など、社協への期待が高まっています。

大切な三つの役割

●地域活動（絆づくり）

見守り活動（台帳 マップの作成）
居場所づくり（サロンの運営）
健康すこやか学級など

●指定管理事業（施設受託運営）

児童館 老人福祉センター 老人デイサービスなど運営

●相談支援事業（セーフティネット）

日常生活自立支援事業 生活福祉資金貸付事業 法人後見事業など

= 地域の絆づくり = 学区社協の取り組み例

見守り活動

- ・地域の銭湯に協力をいただき、家庭での入浴が難しい高齢者や障害のある方に、ボランティアによる送迎や入浴介助
- ・行事に参加できない高齢者の方へ、地域の小学生が誕生月にお花とメッセージカードをお届け
- ・小中学生の登下校時の見守り
- ・高齢者調査と災害時・福祉マップの作成。声掛け

居場所づくり

- ・地域の大学生のグループによる楽しく集まることのできる場づくり
- ・高齢者施設を利用しての、子育て世代の交流の場。孫と祖父母のような交流、母親同士のつながりが広がる
- ・健康すこやか学級の開催。体操やレクリエーション、おしゃべりをしたり、文化的講座の場として。
- ・読み聞かせ教室や子育てサークル等を通しての仲間づくり

= 生活支援の先駆的な取り組み =

チャレンジ就労体験事業

（貧困・孤立などの生活課題を抱えた支援の必要な方）生活保護受給者を対象に、就労や社会生活の自立をめざし、就労体験を通して支援します。社協運営施設で受け入れをし、風呂清掃や洗車、庭の手入れ等を行うことで生活の張り合いや就職への目標を持ってもらいます。

若年性認知症支援

交流会「オレンジサロンひと・まち」を開催し、失業による不安や、周囲の理解が得られにくい若年性認知症の方とその家族の孤立を防ぎます。今後は地域での展開を目指しています。

高齢者等見守り活動企業連携事業

宅配事業者と協定し、宅配利用の高齢者の異変時に連絡し合います。新聞やごみが溜まっている、大量に同じものを買ったり話がかみ合わなくなったり等の異変時に区社協へ連絡します。そこから学区社協や関係者へつなぎ必要な対応をします。京都生協もその事業の一つです。

感想より

京都生協と見守り協定締結直後に発生した事例の紹介もありました。見守られる組合員にとってはもちろんの事、直接かかわる宅配担当者にとっても、安心して業務を続けられる、シンプルで有効なシステムだと思いました。私たちが取り組む福祉活動の一端として、商品と一緒に安心感も届けられるというメリットを広く知ってもらいたいと思います。組合員とのつながりの中で、必要とされる関わり方が把握できれば、市社協、区社協と連携して具体的な何かを作り出せるのではないのでしょうか。